

海燕社

の小さな 映画会2025

8.24日 14時～

沖縄県立博物館 美術館 講堂(3F)

受付13:15 開場13:30 料金 1,200円(予約) 当日1,500円

※小中高生は600円(先着10名まで無料)

予約は海燕社まで TEL: 098-850-8485 E-mail: mail@kaiensha.jp

かいえんしゃ



予約フォーム

九州・沖縄から
文化力
POWER OF CULTURE
後援: 沖縄県、那覇市



芸術文化振興基金助成事業

8月会

August 2025 Meeting

“海燕社の小さな映画会 2016”で上映。
9年ぶり待望のアンコール上映です。



人形アニメーション映画

死者の書

原作: 折口 信夫 / 監督・脚本: 川本 喜八郎 / 2005年製作 / 桜映画社・川本プロダクション
文部科学省選定 / 文化庁メディア芸術祭優秀賞 / 中国国際アニメーション・デジタルアートフェスティバルグランプリ
ザグレブ国際アニメーション映画祭審査員特別栄誉賞、他

声の出演: 宮沢 りえ 観世 鉄之丞 榎本 孝明 江守 徹 黒柳 徹子 新道 乃里子 三谷 昇 岸田 今日子(ナレーション)

【時代背景】

『死者の書』の時代設定は、奈良時代。平城の都の文化の爛熟する一方で、疫病や疫災が流行し、天皇の病氣平癒を祈願して東大寺の大仏が建立され開眼供養の行われた時代。富と権力を取り巻く権力者達の争いが繰り返されていた。万物に霊が宿ると信じられていた時、大陸からもたらされた仏教がようやく社会に浸透しはじめた時代である。

【あらすじ】

時は奈良。大和の文化と大陸から渡来した華やかな文化がせめぎ合い溶け合った時代。平城京では大伴家持や惠美押勝らが、やまとごころや漢土(もろこし)の才(さえ)について論じ合っている。大貴族である藤原南家(ふじわらなんけ)の郎女(いらつめ)は、当時の最も新しい文化——仏教に目覚め称讃浄土経の千部写経を始めていた。彼岸中日の夕暮れ、郎女は荘厳な佛人(おもかげびと)が二上山の上にきらめき浮かび上がるのを見た。千部目の写経を果たした夕は雨、郎女はものに憑かれたように屋敷を出て、二上山のふもとまで来てしまう。そこは、女人禁制の当麻寺の境内である。郎女は、この世への執心ゆえにさまよい続けている大津皇子の魂と出逢い、やがて皇子と佛人を重ねて見るようになる。郎女と皇子の魂は互いに惹かれ合い、郎女の一途な心は大津皇子のさまよえる魂を鎮めていく……。



上映作品、上映日は都合により変更することがあります。詳細は、海燕社のウェブサイト (<http://www.kaiensha.jp>) や SNS にてご確認ください。

古書店 うみつばめ

URL: <http://kaiensha.stores.jp> @KoshoUmitubame

海燕社のウェブ古書店うみつばめ。年中無休で開店しています。こだわりの、画家 石垣克子デザイン、オリジナルブックカバーとオリジナルしおり(3種類)です。いずれかをご購入の本におつけします。よい本と出会えますように。

